



夢に向かって

何事にも全力で挑戦する——

大沼 ^{たいが} 泰雅 さん (県北中3年)

第29回

私の将来の夢は、消防士になることです。命がけで誰かを救う消防士の姿に、幼いころから憧れていました。中学2年生の時に自分の将来について真剣に考えたときに、憧れていた消防士になりたいと改めて思うようになりました。

今は、来月開催される福島県中学校駅伝大会に向けて、毎日練習しています。チームも個人もベストタイムを出すことが目標です。

私は、この3年間で野球とバスケットボールと陸上と駅伝を経験しました。陸上では、練習の成果が出て、県大会に出場することができました。改めてスポーツの楽しさを感じました。

どの競技にするかまだ決まっていませんが、高校でも運動は続けていきたいです。

夢がかなったら、自分が憧れていたように、誰かに夢を与えられるような消防士になりたいです。命を救う職業なので、医療の専門知識や体力、気力、的確な判断力が必要になるので、できることから始めて、夢に近づけられるように努力していきたいと思います。

私のモットーが「何事にも挑戦すること」です。やらずに後悔するより、やって後悔した方がいいと思うので、大人になっても挑戦する心を忘れずに、仕事も、遊びも全力で挑戦していきたいです。



町長コラム

ま 真こらむ

【第38回】

町の宝もの

このひと月、いつもより予定が混みあった。岐阜県池田町訪問、あつかし歴史館の七夕まつり、歴史まちづくりシンポジウム、財務省・国土交通省への要望、職員互助会夏季交流会、県民税優良納税知事感謝状伝達、県北建設事務所との事業調整会議、国見夏まつり、こどもの居場所づくりトップセミナー、県農林水産部長来町、東京ふるさと国見会の桃フェス、徳江北・貝田・石母田・小坂の盆踊り、務川慧悟ピアノリサイタル、福島ユナイテッドFCの国見ホームタウンサンクスデー…。

中でも、この時期ならではの催しは夏まつりと盆踊り。子どももお年寄りも飲んで、食べて、話して、笑って、踊る。その陰で汗だくで動く人たちがいる。その熱量が、すごい。時代とともに内容の変化はあったかもしれないけど、根幹は変わってない。東北地方の町村で初めて歴史まちづくり計画を作った国見町ならではの宝もの、風致を実感。

もう一つは、務川慧悟のピアノリサイタル。チケット販売は400枚ほど。町外、遠方が多。「どうして国見で演奏会するの?」、「何で国見で呼べるの?」と宣う他所のマダムたちがいました、と担当。当日のプログラムに全国の名だたる大ホールと肩を並べて国見町観月台文化センターの名。町の一般会計予算が40億円ほどのときに富永町長が決断、約30億円をかけて造った施設。そんな近隣住民が羨む施設、国見の宝ものなのに、文化芸術予算を絞って来た国見町。使っても使わなくても施設は古くなる。ならば、とことん活用して町の良さをPR。



引地 真



編集 発行 国見町

